

スローテンポ通信

第 32 号

2020年2月15日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

☆ 新刊から注目の本

○ 『#KuToo (クートゥー)』

靴から考える本気のフェミニズム』

石川優実

現代書館 2019年 1300円+税

☆☆★★★

すぐにキレて議論にならない人は多い。まともな議論を避けたい保守層にとっては都合のよい存在だ。そういう一面では、本書は現代を映す鏡といえる。著者の願いは、結局のところ「私を認めて!」といった承認願望と思える。

○ 『ゆがむメディア ゆがむ社会』

ポピュリズムの時代をふまえて』

北口末広著

解放出版社 2019年 1,600円+税

☆☆☆☆

メディアが権力者に悪用されれば、教育や世論まで操作されることになる。ネット空間では力のある者が、情報発信者の個人情報収集分析し、都合よく利用している。本書は、極めて脆弱な状態にある個人がそれに抵抗するにはどうすればよいかを考えさせる。



正しく伝えて人とつながる 実用文教室

伝えたいことを伝えたい人に、最も正確に伝えられるのが文章です。

① まず、誰が誰に何を伝えたいのかを話し合って確認します。

② 次に、参加者が書いた文章を持ち寄って、言いたいことがきちんと伝わっているかどうかを述べ合います。

木曜日午後3時~5時

参加費は資料代含めて、1回500円。

夫婦げんかをおさめる方法

懇話会を開催したばかりの頃は、しゃべりたい人ばかりで大変だった。

世間では傾聴という言葉があまりにも美化されているので、「俺の話は黙って聞け、話を聞くのが当たり前だ」と思っている人ばかりだ。

ディベートの流行も困ったものだ。持論を展開する人に疑問点を質問すると、「最後まで話を聞け」と叱られる。議論を勝ち負けでとらえる人は、相手の意見を聞こうとしない。

一人でしゃべる人をそのまま放っておけば、懇話会が自慢話と愚痴、自説の披露ばかりになってしまい、一人舞台になってしまう。おもしろくない人は来なくなる。

しゃべる人が決まってしまうのをどうしたらよいか。

傾聴とディベートを礼賛するところに原因があるのだろう。

傾聴とは、一方的にしゃべるのを黙って聞くものであって、理解を深めるものではない。

ディベートとは立場の議論であって、勝敗を決めるのが目的である。相手を理解することは負けにつながり一方的にしゃべるが勝ちである。

このような考え方をもち込まれると、参加者が限られてしまうし意義ある話し合いにはならない。

参加者全員が意見を出せるようにするには、どうしたらよいか。

試行錯誤で少しずつ懇話会のルールが出来上がってきた。その基本が課題解決型である。

まず初めに、各参加者に、日頃の思いや困った体験、ニュース報道に対する意見など自由に話してもらおう。全員順番に話す、話したくない人はパスする。無理やり吐き出させることはしない。

そこで出てきた話題から、共通課題を設定する。課題と言っても、参加者全員が関心を抱く共通課題にしなければならない。

その後は、課題解決のための意見を出し合う。

ある日の懇話会の話題を紹介しよう。

ぼんやりと歩いている女性を見かけ、「おばさん、階段から落っこちるよ!」と呼びかけたかったけど、ついたためらった。おばさんと呼ばれるとムツとする人が多いからだ。

おばさんは軽蔑語になってしまった。女性は誰しもおばさんと呼ばれたくない。

英語圏では誰に対してもレディー、ジェントルマンでよい。日本語ではそれに代わる言葉がない。どう呼ぶかよいかの共通課題となった。

いろいろアイデアと意見が出て最終的には、おじさん、おばさんはもともと尊敬と親しみのこもったいい言葉だ。「おばさんと呼ばれたらありがとうと言おう」ということになった。

これをディベート型にしたら、おばさんと呼ぶことに対して、賛成派と反対派に分け議論を戦わせ、勝敗を決めることになるだろう。

傾聴は無理にでも共感を演じるのだから聞き手の人格を否定する。それは、話し合いの原点を否定することであり、ひいては話し手の人格まで否定する。話し合いはあくまで、自分の本当の意見を出し合って、互いの理解を深めるためのものである。

ディベートは、立場を固定し、問題点を特定の枠組みでとらえてしまう。その枠組みから抜け出せないから、話し合いが枠組み内に閉じ込められる。そのことは、裁判制度や国会での議論、国家間の対立を見れば理解できる。夫婦げんかも構図は同じで、立場の対立なのである。

課題解決型は既存の枠組みに支配されずに、いろいろな立場の参加者が自由に考え、多様な意見を出す。それは、問題解決の優れた方法といえる。

夫婦げんかも、ディベート型から、課題解決型に変えることにより、夫婦円満になることうけあいである。国家間の対立も、世界中から知恵とアイデアを集め課題解決型で取り組んでいけば、戦争が回避され世界は平和になる。 N

ベストセラーばかりが面白いとは限らない

スローテンポ書店

小山駅前 **ロブレ** 地階 にオープン

営業時間は 火~土 13時~19時

日月祝日は休みです



どなたも歓迎 懇話会

☆スローテンポ書店は、自慢話傾聴型のおしゃべりやディベート型の議論を卒業し、課題解決型の話し合いを提唱しています。

水曜日午後5時~7時、参加無料。